

<会員による自著紹介>

アメリカの学生獲得戦略

山田礼子

同志社大学

玉川大学出版部（2008年発行）

定価 3,150円（税込）



本書では、高等教育機関が社会と個人の様々なニーズに応える機関へと多様化する方向へ進んでいる現在、顧客である学生を確保し、教育・教師の質的向上、組織の改革のために、各高等教育機関はどのような戦略をとっているのかを、アメリカの大学などのホームページの検索も駆使して解説している。具体的にはキャリア教育、職員の職能開発、アクレディテーション機関による評価の公開、初年次・導入教育、学生支援、IR（Institutional Research：機関研究）、学生調査と教育改善など、日本ではまだあまり取り組まれていない領域であるが、アメリカを中心とする海外の先進事例から有効な大学戦略としての意味を持つ数々の取り組みについて紹介し、日本の大学が今後とるべき戦略に示唆を与えることを目的としている。本書は四部から構成されている。第一部では、高等教育機関が学習者をいかに支援していくかを入口から出口までの段階のみならず、21世紀を生涯にわたって学習していく時代であるとみなした場合、いかに生涯にわたって学ぶ人たちへの支援をおこなうかという視点をベースに様々な事例と概念を解説する。第二部では、地域・社会と高等教育機関がかかわることによって、優秀な人材を高等教育機関の職員として確保するための開かれた市場とそれを支えるシステム等について述べている。第三部は大学の質を向上するための方策や取り組みを、主に大学評価、教員評価、FD、学生の教育評価という視点から紹介し、次にそうした戦略的取り組みを支援する部門であるIR（機関研究）部門について解説している。第四部では、グローバリゼーションの流れのなかで、アメリカのコミュニティ・カレッジや株式会社立大学の事例やオーストラリアの大学の事例をベースに、大学の勝ち残り戦略について提示している。